

## 資料 3 - 1 道州制に移行した場合のイメージ（具体例）

### 交通・社会資本分野

#### ◎主な役割分担の具体的なイメージ

行政分野	国	道 州	市町村
交 通 社会資本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空保安</li> <li>・海上保安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空港（1種、2種、3種）</li> <li>・鉄道（新幹線含む）</li> <li>・港湾（重要港湾、地方港湾）</li> <li>・高速道路、州道（現在の地域高規格道路、一般国道、県道の一部を含む）</li> <li>・情報通信インフラ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村道（現在の県道の一部を含む）、農道、林道、港湾（道州管理以外のもの）、漁港</li> <li>・上下水道・公営住宅・都市公園・文化施設等の都市基盤観光</li> </ul>

#### (1)九州の一体的発展のための高速交通ネットワークの形成と地域の暮らしを支える交通基盤の整備（交通）

##### 道州制のイメージ

- ・九州各地域での産業活動を活性化するために、高速道路・幹線道路の整備や、住民のニーズに応じた生活道路の整備を、地域の判断で細やかにスピーディーに実施
- ・港湾、空港、鉄道の整備も道州が主体となって効率的に行うことができ、九州の一体的な発展を目指す

- ◆九州全体の発展戦略と連動した基幹道路の整備を促進
- ◆住民のニーズに応じた生活道路の整備を推進
- ◆経済活動のグローバル化に対応したゲートウェイ機能の充実強化
- ◆幹線鉄道の高速度化や地域鉄道の支援
- ◆くらしに密着した地域の交通手段を確保

#### (2)河川の一元的管理による地域の個性を活かした安全安心な河川づくりと地域社会と住民生活を支える水資源の確保（社会資本）

##### 道州制のイメージ

- ・国の河川管理の権限を地方に移し、地域住民と連携した地域の個性を生かした安全安心な河川づくりを実施
- ・渇水時には九州広域内で貯水率の高いダムから優先的に水供給を行うなど、住民に安定的な水資源を確保

- ◆河川を道州管理の広域河川と市町村管理の地域河川に変更し、地方が河川管理全般を担う
- ◆河川流域の個性を活かし、住民と連携した川づくりを展開
- ◆広域的な水利調整を道州がスピーディーに実施
- ◆全てのダムを道州が一元管理することで、渇水時の断水を回避し、住民生活を守る